

本日 (6 月 1 日)、R B A (オーストラリア中銀) は、豪ドル政策金利のオフィシャルキャッシュレートを過去最低の 0.10% に据え置くことを発表した。

R B A は、完全雇用を目標にして、2024 年まで、政策金利を据え置く可能性を、改めて、示した。

R B A の政策金利据え置きは、事前の予想通りで、サプライズは無い。

+++++

そして、R B A は、金利据え置きが、長期にわたる可能性を改めて示唆したのだが、マーケット (金融市場) は、それに対しては、懐疑的に見ている、と考えます。

現在のマーケット (金融市場) は、様々な通貨に対して、「テーパリング」に、大きく注目しているからだ。

「テーパリング」とは、量的緩和策による金融資産の買い入れ額を、順次減少させていくことを指します。

+++++

例えば、米国の金融政策に関しても、今のところ、まだ、「テーパリング」は始まっていない。

しかし、米国では、コロナウイルス対策でワクチンの接種が進み、経済の早期回復が期待されている。

米国経済が、回復すれば、「テーパリング」が始まることは自明の理だから、マーケット (金融市場) は、それを先読みしているのだ。

今回、R B A が、2024 年まで、政策金利を据え置く可能性を、改めて強調したのは、そういったマーケット (金融市場) の先読み、釘を刺すことが目的だったのだろう、と考えます。

+++++

各国の金融政策では、マーケット (金融市場) との対話は必要かつ重要と考えます。

しかし、マーケット（金融市場）の思惑が強くなり過ぎると、金融政策を変更しても、その効果が弱くなるケースが多々起こります。

例えば、金融緩和局面から、金融引き締め局面に転換する際に、マーケット（金融市場）が、大いに先読みしていると、少々の金融引き締め政策では、物足りないと判断されてしまいます。

つまり、RBAは、中央銀行としての先々の金融政策が、有効に働くように、マーケット（金融市場）の先読みに対して、その対抗手段を講じたのだろう、と考えます。

+++++

もちろん、RBAの言う通りに、2024年まで、豪ドルの政策金利が据え置きとなる可能性も、十分にあり得る、と考えます。

しかし、世界経済における環境が、劇的に変化する場合は、今年の年内後半や、来年の前半辺りに、RBAが金融政策の変更を余儀なくされる可能性も、十分にあり得る、と考えます。

そういった意味で、RBAのコメントを真に受けない方が良さそうだ、と、個人的には、判断しています。

+++++

（2021年06月01日東京時間15：40記述）